

3. 21世紀の沖電気工業へ—新経営計画「フェニックス21飛翔」

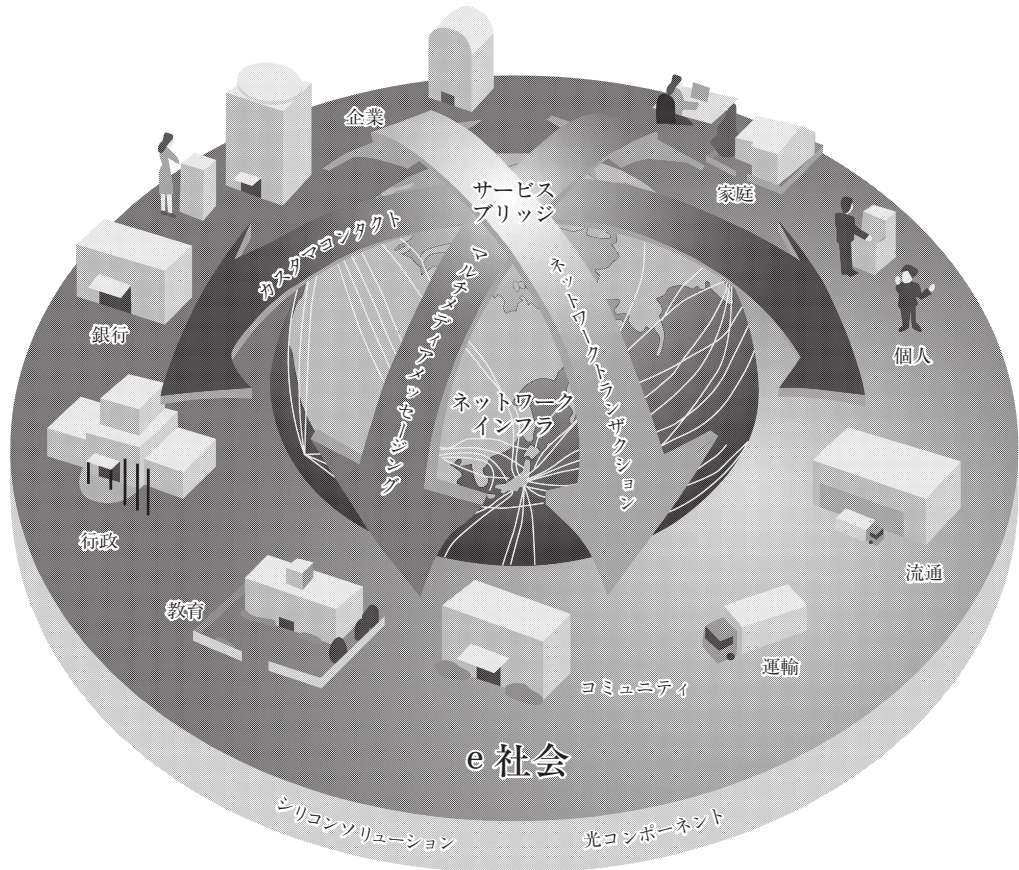
新経営計画「フェニックス21飛翔」を発表

2001（平成13）年3月、沖電気は新中期経営計画「フェニックス21飛翔」を発表した。「フェニックス21計画」を引き継いで策定された「フェニックス21飛翔」は、企業ビジョン「ネットワークソリューションの沖電気」を具現化する事業ドメインを再編するとともに、「ネットワーク型カンパニー経営」により経営基盤を強化し、2005年度に向けて「安定収益企業」から「優良成長企業」へと質的・構造的に変革していこうとする計画であった。

「グローバルに張り巡らされたネットワークを基盤に、時間や空間の制約を超えて国・地域や文化の障壁が崩され、あらゆる活動が公平で安全に行われる社会」。沖電気は、21世紀に実現するであろうこの社会を「e社会」と呼び、そこにおけるビジネス支援に必要不可欠なネットワークソリューションを提供することを企業ビジョンとして掲げた。具体的には、沖電気が強みをもつ事業ドメインを、「e社会」への架け橋となる「サービスブリッジ」および「ネットワークインフラ」として整理し、そのなかで顧客の課題解決や新たな価値創造につながるさまざまなソリューションを提供しようとしている。

「フェニックス21計画」とともに発表された企業ビジョン「ネットワークソリューションの沖電気」は、「フェニックス21飛翔」においていっそう深化が図られた。製品を中心としたITソリューションの提供から、サービスを競争優位の源泉とするeビジネスソリューションの提供へと事業を拡大し、さらにネットワークの利点を最大限にビジ

図8-4 「ネットワークソリューション」を具現化する事業ドメイン



ネスに生かして、デバイスから端末、ネットワークインフラ、プラットフォーム、アプリケーションまで、顧客と一体になってビジネス開発を行い、新しい事業を創出するという成長戦略が明確に示され、事業ドメインについても絞り込みが行われた。この結果、ネットワークソリューションを具現化する事業ドメインは、カスタマコンタクト、マルチメディアメッセージング、ネットワークトランザクションからなる3つの「サービスブリッジ」と、「ネットワークインフラ」の4つに再編された(図8-4)。